

● 令和3年（2021年）の世界の主な火山活動

令和3年（2021年）に顕著な被害を伴った噴火が報告された主な火山（日本を除く）*は以下のとおり。

スフリエール（セントビンセント島）(Soufrière St. Vincent) セントビンセント及びグレナディーン諸島 標高 1220m

4月9日から12日にかけて顕著な噴火が繰り返し発生し、噴煙が16kmまで上昇した。この噴火に伴って大量の降灰があったのに加え、海岸にまで達する火砕流や泥流が広範囲に発生した。広域の停電、や断水、家屋の倒壊も発生した。周辺地域の住民1万3千人以上が避難した。

ニーラゴンゴ (Nyiragongo) コンゴ民主共和国 標高 3470m

5月22日から23日にかけて南山麓で割れ目噴火が発生し溶岩が流出した。溶岩流は居住地域を含む広い範囲を覆い被害をもたらした。家屋の損壊は3629棟、死者31人、行方不明者40人、2万人以上が避難した。

ラパルマ島 (La Palma) スペイン、カナリア諸島 標高 2426m

9月19日に割れ目噴火が始まり、溶岩噴泉、溶岩流出などの活動が12月まで継続した。複数の火口から流出した溶岩は5km以上流下して島の西海岸に達した。溶岩で破壊された建物は約3千棟に及び、一時は6千人以上が避難した。

スメル (Semeru) インドネシア 標高 3657m

12月4日に山頂火口の溶岩ドームで規模の大きな崩壊が発生し、これに伴う火砕流が谷沿いに15km以上流下した。この火砕流による被害は、同13日現在、死亡48人、行方不明12人、重症21人となっている。火砕流はその後にも発生し、同14日までに11,658人が避難した。

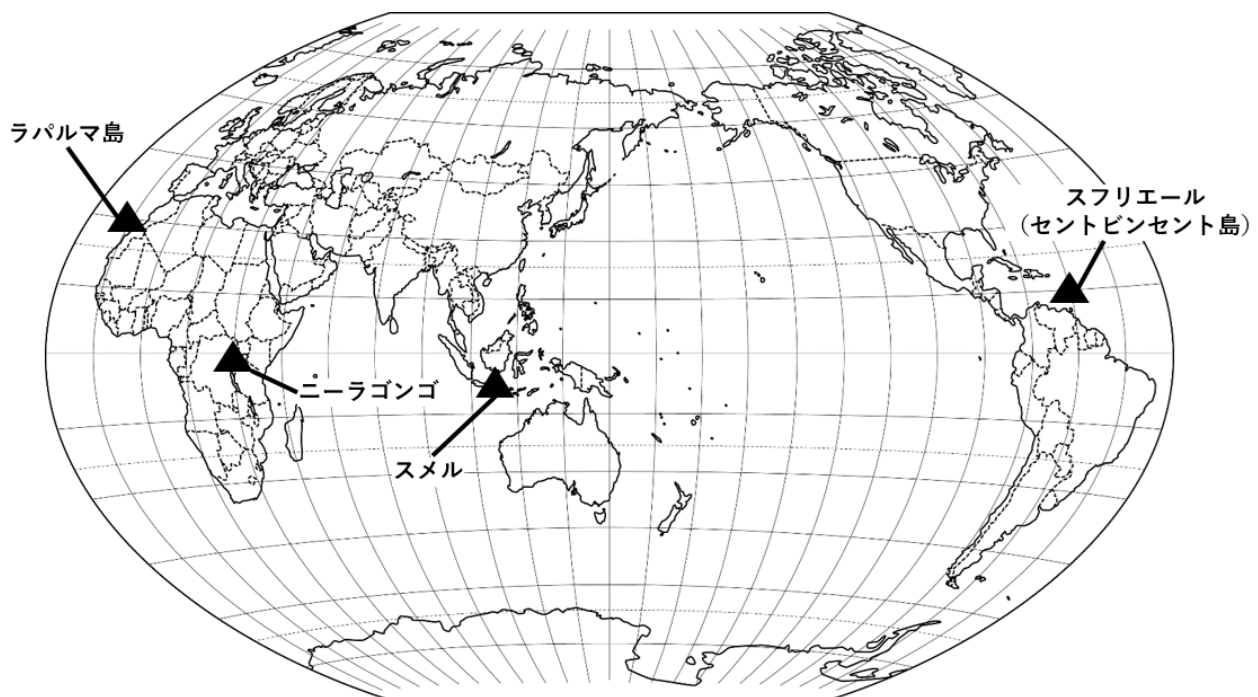


図 令和3年（2021年）に顕著な被害を伴った噴火が発生した主な火山（日本を除く）*

- * 米国スミソニアン自然史博物館のホームページ “Global Volcanism Program | Smithsonian / USGS Weekly Volcanic Activity Report” (http://www.volcano.si.edu/reports_weekly.cfm)、緊急対応調整センター “Emergency Response Coordination Centre (ERCC)” (<https://erccportal.jrc.ec.europa.eu/>)、コペルニクス危機管理サービス “Copernicus Emergency Management Service (EMS)” (<https://emergency.copernicus.eu/>)、インドネシア国家防災庁 “Badan Nasional Penanggulangan Bencana (BNPB)” (<http://www.bnpb.go.id/>) による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。